

おとなとえほん

あなたにとって絵本はどんな存在ですか

ノンフィクション作家の柳田邦男さんは
「絵本は人生に3度読むといい時期がある」とおっしゃっています。

まずは自分が子どもの時。
次に自分が子どもを育てる時。
そして自分が人生の後半に入った時。
特に人生の後半老いを意識したり病気をしたり、
あるいは人生の起休を振り返ったりするようになると、
絵本から思いがけず新しい発見と言うべき深い意味を読み取ることが少なくない。
生きていくうえで一番大切なのは何かといったことが、絵本の中に
すでに書かれている(『絵本の力』引用抜粋 P87)。

生きてきた経験、学んだ知識が知恵となる。と私はいつも思っていて。
だからこそ大人になった今、絵本からのメッセージを受け取ることがある。
子どもの頃には感じなかった大きな共感や気付き。
それは人それぞれ違う。

大に絵本を。というついで、哲学的なもの、読み終わった後に
何か人生感が変わるような大きなテーマのもの。何か読む意味を
探そうとしてしまう気がする。

でもそんなに力を入れすぎず肩の力を抜き、生きてきた年月の積み重ね
から感じる好きのアンテナをしっかりと立て引きよせ出会ってほしい。
それは案外今本当にあなたに必要な絵本だったりするのです。
そんな絵本があなたを呼んでいます。

ふわはねえほん ふわはね